

科目名	ブライダルコーディネーター技能検定 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	BIA検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を学ぶ。							
授業の一般目標	日本のブライダル業界で必要な基礎知識、及びブライダルコーディネーター業務について学ぶ							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日本のブライダルの歴史、ブライダルビジネスの現状が把握できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	過去のBIA検定問題に出題されているブライダルの基礎知識を間違いなく選択することができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダルに関する関心を広げ、各ブライダル業種や関連業種について調べ、説明することができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	前期で学んだ範囲のBIA検定過去問題を解くことができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	検定の趣旨・特徴・受験の手続きなど案内						
第2回	Lesson2 ブライダルビジネス	ブライダルビジネスと呼ばれる業種を学ぶ・市場の推移を知る						
第3回	Lesson2 ブライダル業種	結婚式会場・披露宴会場・その他ブライダルビジネスについて						
第4回	Lesson2 ブライダル業界の1年	繁忙期・閑散期・集客のシステムについて						
第5回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習小テストの実施及び解説						
第6回	Lesson3 ブライダルの基礎	見合い・結納について・顔合わせについて						
第7回	Lesson3 ブライダルの基礎	新郎新婦の結婚までのスケジュール。検討必要事項及び時期を学ぶ。						
第8回	Lesson3 ブライダルの基礎	様々な挙式①:キリスト教式・シビルマリッジ						
第9回	Lesson3 ブライダルの基礎	様々な挙式①:神前式・仏前式						
第10回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習小テストの実施及び解説						
第11回	Lesson3 ブライダルの基礎	披露宴～二次会、海外ウェディング、新婚旅行について						
第12回	Lesson4 コーディネーター業務	ブライダルセールスの特徴(商品特徴)、セールスと施行、新規から成約までの流れを学ぶ						
第13回	Lesson1～4までの総復習	ブライダル概論及びBIA検定の授業範囲の総復習						
第14回	Lesson1～4までの総復習	ブライダル概論及びBIA検定の授業範囲の総復習						
第15回	期末テスト	1回～14回の内容で期末テスト実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○		○		50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎		○		20	A(3):80点以上
宿題授業外レポート			○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			◎	○			20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	ブライダルコーディネーター技能検定Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	BIA検定対策授業。ブライダルコーディネーター検定3級取得の対策を通し、ブライダル業界へ従事する為の基礎知識を学ぶ。							
授業の一般目標	日本のブライダル業界に必要な基礎知識、及びブライダルコーディネーター業務について学ぶ							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ブライダルコーディネーターの業務内容を説明することができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	BIA検定問題の基礎知識を間違いなく選択することができ、得た知識を他の実技授業で活かす事が出来る。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダルに関する関心を広げ、各ブライダル業種や関連業種について調べ、説明することができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	BIA検定3級を取得できる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	検定試験に関する詳細説明・前期復習・後期授業範囲について学習する						
第2回	Lesson5 打合せ業務	成約から披露宴本番までの打合せの流れについて学習する						
第3回	Lesson6・Lesson8 ブライダルアイテムの選定・当日業務	会場コーディネイト・テーブルプラン・テーブルセッティングについて理解する						
第4回	Lesson6・Lesson7 ブライダルアイテムの選択・手配業務	ペーパーアイテム(招待状・席札など)について発送時期や基本ルールを学習する						
第5回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習テストの実施及び解説						
第6回	Lesson6 ブライダルアイテムの選択	婚礼料理、飲み物、ウェディングケーキについて学習する						
第7回	Lesson6・Lesson8 ブライダルアイテムの選択・当日業務	披露宴の進行、司会や音響の役割、各種演出について理解する。						
第8回	Lesson6・Lesson8 ブライダルアイテムの選択・当日業務	披露宴の進行、司会や音響の役割、各種演出について理解する。						
第9回	復習テスト	BIA検定過去問も含めた復習テストの実施及び解説						
第10回	Lesson7 手配業務	引出物・引菓子・写真撮影や映像素材の種類などについて学習する						
第11回	Lesson7 手配業務	引出物・引菓子・写真撮影や映像素材の種類などについて学習する						
第12回	BIA検定対策集中授業	過去問題を繰り返し行い、解説。問題対策を行う。						
第13回	BIA検定対策集中授業	過去問題を繰り返し行い、解説。問題対策を行う。						
第14回	総復習	コーディネーター業務の総復習を行い、期末テスト対策を実施。						
第15回	期末テスト	前後期授業で学んだ内容で実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○		○		50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎		○		20	A(3):80点以上
宿題授業外レポート			○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			◎	○			20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	全米ブライダルプランナー検定 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	主に全米ブライダルプランナー検定2級取得を目的とした対策授業。 この授業で使用する教材から日本のブライダル業界の変遷も理解する。また、現在行われている日本のブライダルでの進行や演出の多くは、欧米のブライダルの流れを受けている事を理解し、それぞれの演出や進行が持つ歴史や意味についての知識を広げる。							
授業の一般目標	ブライダル業界で必要とされる一般的な知識を習得し、9月に実施される全米ブライダルプランナー検定の2級合格を目指す。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. ブライダルの歴史、欧米と日本の違いについて説明できる。 2. ブライダル業界の各領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた進行や演出を参考に、模擬挙式やリアルウェディングの進行を考える事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	欧米で行われている演出や進行を実践に活かす事ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全米ブライダルプランナー検定2級を取得できる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	検定試験概要説明、授業の進め方について説明。 アメリカンウェディングとは宗教・人種などの特徴について						
第2回	欧米編	第4章本番 (聖職者・ブライダルパーティ、リハーサルウェディングについて)						
第3回		3つの宗教について 第5章 本番レセプションについて						
第4回		第7章 宗教ウエディングについて 基本的な考え方やしきたり						
第5回		宗教的な挙式 プロテスタント・ローマカトリック・ユダヤ・非宗教						
第6回		英語での名称を覚える。ディストネーションウエディングやダンス・食事について・総復習を行う						
第7回		日本編	日本のブライダルの変遷を学ぶ					
第8回	ブライダルに関わる日本のビジネスについて							
第9回	六輝・熨斗・結納など、日本特有のしきたりについての総復習							
第10回	総まとめ	欧米ならではの特徴を総復習(ブライダルパーティ・宗教挙式など)						
第11回		日本のブライダルビジネスについて(ゼクシイトレンド調査の動向を知る。)						
第12回	直前集中授業	過去の問題から傾向と対策を図る						
第13回								
第14回	直前対策授業	ピンスポットで重点的に復習し検定試験に備える						
第15回	期末テスト実施	欧米と日本のテキストより出題						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			○		50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	森田 有香		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/				

科目名	全米ブライダルプランナー検定Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	主に全米ブライダルプランナー検定1級取得を目的とした対策授業。 前期に学習した内容を復習し、1級の範囲となるテキスト後半の対策及び、プランナーになった場合を想定した論述形式の問題への対策を行う。							
授業の一般目標	ブライダルプランナーとしての対応力を学び、3月実施の全米ブライダルプランナー検定1級取得を目指す。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. ブライダルの歴史、欧米と日本の違いについて説明できる。 2. ブライダル業界の各領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた進行や演出を参考に、さまざまなパターンのゲストへの提案を考案できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	欧米で行われている演出や進行を実践に活かす事ができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全米ブライダルプランナー検定1級を取得できる。論文でプランナーを想定したゲストへの提案ができる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	検定試験概要説明、授業の進め方について説明。						
第2回	日本版①	1年時に学習した内容の日本版の総復習を行う						
第3回	日本版②	1年時に学習した内容の日本版の総復習を行う						
第4回	日本版③	1年時に学習した内容の日本版の総復習を行う						
第5回	欧米編①	欧米版テキスト7章～12章を過去問題に添って学ぶ						
第6回	欧米編②	欧米版テキスト7章～12章を過去問題に添って学ぶ						
第7回	欧米編③	1年時に学習した内容の欧米版の総復習を行う						
第8回	欧米編④	1年時に学習した内容の欧米版の総復習を行う						
第9回	記述対策授業	記述問題に対して。いくつかのパターンを学び、プランナーとしての提案を論文にする						
第10回	記述対策授業	記述問題に対して。いくつかのパターンを学び、プランナーとしての提案を論文にする						
第11回	総まとめ	欧米ならではの特徴を総復習(ブライダルパーティ・宗教式など)						
第12回		日本のブライダルビジネスについて						
第13回	検定直前対策授業	全米ブライダルプランナー検定1級試験 直前対策授業						
第14回								
第15回	期末テスト実施							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			○		50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	ブライダルコスチューム I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	人生で最も華やかで輝かしい儀式「結婚式」「披露宴」のための婚礼衣裳。花嫁がその運命の1着に出会われるまでのサポートをするのがコスチュームアドバイザーやスタイリストです。本授業では、衣裳の歴史・ドレスコード・シルエットの名称とその似合う体型を学び、ドレスコードなどの扱い方を習得します。洋装(ウェディングドレスやカールドレス)・アクセサリー・ベールなどの小物合わせ、和装についてトータルで学習し、ブライダルの現場で即戦力となれることを目指します。							
授業の一般目標	①衣裳・小物の種類を理解する。 ②ドレスの着せ方を学び、フィッティングができる。 ③補正の方法やドレスメンテナンスや、扱い方を知る。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	衣裳の歴史、アイテム、シルエット、小物の名称を理解できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ドレスを美しく着せるためのパニエやファンデーションを使用する事が理解できる。シルエットに添った小物を選らぶ事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	近年の流行に関心を持ち、新郎新婦の衣裳小物、スタイリングを意識できる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	ドレスフィッティングの出来栄が美しいか否かの判断ができる。適切な取り扱いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	ドレスの取り扱い方を知り、お客様へ行うように丁寧に美しくドレス着付を行える。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス・コスチュームの概要	ブライダルコスチュームとは、コスチュームアドバイザーとは				PCで紹介		
第2回	ウェディングドレスの基礎①	ドレス関連用語、デザインの特徴、アクセサリー、小物の種類など						
第3回	ウェディングドレスの基礎②	ドレスのマテリアル(布地・素材)、サイズ展開、採寸、小物合わせ						
第4回	ウェディングドレスの基礎③	ドレス・ベール・パニエの扱い方やディスプレイの仕方						
第5回	ウェディングドレスの基礎③	ドレスの扱い方・メンテナンスについて						
第6回	メンズコーディネート	新郎衣裳の基礎知識、コーディネイト例						
第7回	フィッティング① 基礎編	ドレスの着せ方、選び方、ドレス下着の重要性など				演習/トルソー使用		
第8回	フィッティング② 応用編	” ”、お客様のサイズに合わないドレスの着せ方・補正のテクニック				演習/トルソー使用		
第9回	フィッティング③ 応用編	モデルの好みにあわせたコーディネイトと小物のあわせ方				トルソー使用		
第10回	コーディネートルールプレイング	ドレスショップでの接客を実践 試着をコスチュームアドバイザー役・花嫁役でロールプレイング				演習		
第11回	和装コーディネイト①(衣裳店見学)	和装婚礼の衣裳に関する基礎知識・コーディネイトの仕方				演習		
第12回	和装コーディネイト②(衣裳店見学)	列席者衣裳の種類やしきたり、マナーを学ぶ						
第13回	ドレススタイリング 準備編							
第14回	ドレススタイリング 実践編	ドレススタイリングの提案とプレゼンテーション				グループワーク		
第15回	前期試験	前期の振り返り						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎	○		○		50%	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	○				20%	A(3):80点以上
グループワーク		○	◎	◎	◎		10%	B(2):70点以上
授業態度	○		◎	◎			20%	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	
担当教員	北 昌幸			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/kita/			

科目名	ブライダルプロデュースⅡ		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	学内でリアルウェディング(本物の結婚式)を行い、現場の緊張感やチームワークを学ぶ。 また、ブライダルに携わる業務全てを学生時代から経験する事で、プランナーとして通用する人間になる							
授業の一般目標	本物の結婚式と披露宴を、打合せから施行まで全てを学生主導で行う。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	挙式や披露宴の進行やあらゆる演出について説明が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの披露宴と挙式を実行する事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた進行を行える							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参加者や他の学生に対応する事ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	リアルウェディング	概要説明・役割分担・完成までの準備スケジュールの確定				各担当ごとに、準備・練習を行い 都度情報の共有を行う		
第2回	リアルウェディング(準備編)	テーマについて(全体)、招待状・席札・席次等のデザインと作成						
第3回	リアルウェディング(準備編)	ドレス提案と着、ヘアメイク提案と施術、ブーケ、ヘアード提案と作成						
第4回	リアルウェディング(準備編)	進行内容確定(全体)、進行に添った司会台本の作成と練習、音響照明、カメラの練習と準備						
第5回	リアルウェディング(準備編)	会場レイアウト及び装飾の確定、装飾作成、席次表作成						
第6回	リアルウェディング(準備編)	打合せ内容の共有、当日スケジュール確定、備品類準備、当日サービス配置確定など						
第7回	リアルウェディング(打合せ編)	ゲストとの打合せ実践を行う(複数回実施予定)				レポート提出		
第8回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を集約し、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返す						
第9回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を一同に集め、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返す						
第10回	リアルウェディング(リハーサル編)	各パートごとの練習や準備を一同に集め、繰り返しリハーサルを行い情報共有、内容改善を繰り返す						
第11回	リアルウェディング(リハーサル編)	職員を招き、本番想定のリハーサルを実施						
第12回	リアルウェディング(リハーサル編)	本番に備えた最終準備・リハーサル						
第13回	リアルウェディング実施	準備から本番、お見送りまで当日の運営を全て学生達で行う				レポート提出		
第14回								
第15回								
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S):100点~90点
小テスト								優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	○			25	良 (B):79点~70点
授業態度		◎	○	○			40	可 (D):69点~60点
発表・作品	◎	○	◎	○	○		35	不可 (E):59点以下
演習								
出席			○					失格条件
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	セレモニープロデュース I		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	模擬披露宴の企画・立案・施行の全てを学生達で行い、ブライダルに関わるスタッフのそれぞれの役割や、チームワークを学ぶ。							
授業の一般目標	模擬挙式をオープンキャンパスにて実施し、高校生や教員へ披露する。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	挙式の進行やあらゆる演出について説明が出来る							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	準備及び本番の時間管理を行いながら、オリジナルの挙式を実行する事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	授業で学んだ知識を積極的に取り入れた挙式を行える							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	プロのプランナーと同等のマナーで参加者や他の学生に対応する事ができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	司会、音響、衣裳などそれぞれ与えられた役割を円滑にこなす事ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	授業の概要、模擬挙式までのスケジュールを説明						
第2回	テーマ・役割の確定	模擬挙式の役割とテーマを確定し、スケジュールを話し合う						
第3回	模擬挙式準備	装飾や新郎新婦イメージの確定						
第4回	音響・照明について	グループごとに分かれ、音響及び照明の技術を学ぶ						
第5回		グループごとに分かれ、音響及び照明の技術を学ぶ						
第6回	模擬挙式準備	それぞれの役割ごとの準備・練習						
第7回	模擬挙式準備	それぞれの役割ごとの準備・練習						
第8回	模擬挙式準備	全体共有を行いながら役割ごとの準備・練習						
第9回	模擬挙式準備	準備とリハーサルを行う						
第10回	模擬挙式リハーサル	リハーサルの実施						
第11回	模擬挙式リハーサル	リハーサルの実施						
第12回	模擬挙式リハーサル	本番想定のリハーサルを行う						
第13回	模擬挙式実施	オープンキャンパスで模擬挙式を実施						
第14回	振り返り	改善点をディスカッションし、ブライダルプロデュース授業へ繋げる						
第15回	期末テスト実施	模擬挙式の振り返りレポートの提出						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 発表内容に関するレポート提出、準備姿勢、発表当日の完成度に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					15	秀 (S):100点~90点
小テスト								優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	○			10	良 (B):79点~70点
授業態度		◎	○				30	可 (D):69点~60点
発表・作品	◎	○	◎	○	○		45	不可 (E):59点以下
演習								
出席			○					
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	ブライダルプランニング演習		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プランナーにおける結婚式当日までの打ち合わせの流れを知る。また実際に打ち合わせ内容について説明ができるようにロープレを実施する。							
授業の一般目標	プランナーにおける結婚式当日までの打ち合わせの流れを知り、プランニング能力の向上を図る。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	結婚式や披露宴においてプランナーとして必要な対応や準備手順がわかる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダルプランナーに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダルについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	お客様に対して打ち合わせの内容について理解できるように説明ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス	結婚式のイメージ・結婚式という商品について・授業概要						
第2回	結婚式当日の進行について	進行表について内容を読み取れるようにする・1日のタイムスケジュール						
第3回	結婚式の準備について	結婚式本番までの打ち合わせの流れについて						
第4回	打合せの基礎①	招待状とは・招待状の内容について知る						
第5回	打合せの演習	招待状打ち合わせの演習						
第6回	打合せの基礎②	席次表とは・席次表の内容について知る						
第7回	打合せの演習	席次表打ち合わせの演習						
第8回	打合せの基礎③	進行・演出の内容について知る						
第9回	打合せの演習	進行に関する打ち合わせの演習						
第10回	ブライダルアイテム	ブライダルアイテムについての理解を深める						
第11回	イメージトレーニング①	様々なテーマをピックアップし、どのような提案ができるか話し合う				グループワーク		
第12回	イメージトレーニング②	様々なテーマをピックアップし、どのような提案ができるか話し合う				グループワーク		
第13回	プランニング①	実際にテーマに沿って結婚式をプランニングする				グループワーク		
第14回	プランニング②	実際にテーマに沿って結婚式をプランニングする				グループワーク		
第15回	新規接客を受ける	2年生の新規接客をお客様役として接客を受ける・振り返り						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 研修内容に関するレポート提出、準備姿勢、研修に取り組む姿勢に、出席点を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎		○	◎		30	秀 (S):100点~90点
小テスト		○	◎				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点~70点
授業態度	○		◎	◎	○		20%	可 (D):69点~60点
発表・作品								不可 (E):59点以下
演習	◎	○	◎	○	○		30	
出席			○					欠格条件
担当教員	森田 有香		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/				

科目名	メイクセラピー		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	花嫁様の披露宴での心理的なストレスを和らげるメイクセラピーの技術を身につける。							
授業の一般目標	メイクセラピスト2級合格を目指し、セラピストの知識として花嫁様に傾聴・アドバイスができる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でメイクセラピーについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	メイクセラピーの意味	オリエンテーション						
第2週	メイクセラピーにおける顔の成り立ち	円心・求心						
第3週	メイクセラピーにおける顔の成り立ち	円心・求心が他人から見た時の印象						
第4週	自分の顔分析	相モデルにて顔の分析						
第5週	アイシャドーなどの使い方	円心・求心をどのように矯正するか						
第6週	カラーが人に与える印象	色の効果や光の効果						
第7週	カラーの効果	カラーが人に与える印象、その使い方						
第8週	印象分析	印象をコントロールし自分のコンプレックスを克服する						
第9週	傾聴の意味	クライアントの話の聴き方。その動作や実際の動き						
第10週	心理学の基本的な知識	罪悪感など人間の心理を学び、クライアントの軽重ができる						
第11週	リップやチーク、アイシャドウの色の持つ効果	リップ・アイシャドー・チークなど色の使い方で印象管理						
第12週	メイク実習	メイクセラピーの実習(メイク)						
第13週	メイク実習	メイクセラピーの実習(メイク)						
第14週	試験直前模試	筆記とメイク実習						
第15週	期末試験	全体の期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	ビジネス基礎 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事とはどのような内容を学ぶ。							
授業の一般目標	秘書検定3級(11月受験)の合格。ビジネスパーソンとしての最低限のマナーを身に付ける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	秘書検定実問題集3級							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	秘書検定3級合格の知識を習得							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	秘書業務を学んだうえで社会人としてどのように活用できるか判断できる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ビジネススキルを理解した上で模擬挙式に活用する事が出来る							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	検定の概要	授業の進め方 検定概要の確認				秘書検定3級対策		
第2回	必要とされる資質 秘書の心構え 必要な条件	秘書業務の心構え・身だしなみ・第一印象 心遣い、守秘義務、社内連絡、社外連絡				秘書検定3級対策		
第3回	職務知識 秘書の役割と機能 職務	秘書の分類 心構え 定型業務				秘書検定3級対策		
第4回	一般知識 企業の基礎知識	企業の目的 会社の形態と会社の種類 組織と機能 経営管理				秘書検定3級対策		
第5回	企業の組織と活動	人事 労務 会計 財務 マーケティング				秘書検定3級対策		
第6回	社会常識	基礎用語 上位s機としての片仮名語				秘書検定3級対策		
第7回	人間関係と話し方	人間関係と話し方 人間関係の重要性 挨拶 話し方と人間関係				秘書検定3級対策		
第8回	話し方聞き方の応用	話し方聞き方の応用 情報伝達の仕方 報告の仕方				秘書検定3級対策		
第9回	電話応対	電話応対 電話のマナーと話し方の注意点				秘書検定3級対策		
第10回	接遇	接遇の心構え アポイント調整 受付マナー 案内マナー				秘書検定3級対策		
第11回	交際	慶事の知識とマナー 食事のマナー				秘書検定3級対策		
第12回	会議と秘書	会議の目的と種類 会議の種類				秘書検定3級対策		
第13回	ビジネス文書と秘書	社内文書の基礎知識 種類と形式 慣用表現 文書管理				秘書検定3級対策		
第14回	資料管理	ファイリングの基礎知識 名刺の整理 日程管理				秘書検定3級対策		
第15回	日程管理 オフィス管理	日程管理と予定表 予定表の作成				秘書検定3級対策		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	ビジネス基礎Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	会社とはどのような組織か、そこで行われている仕事とはどのような内容かを学ぶ。							
授業の一般目標	秘書検定2級(1月受験)の合格。ビジネスパーソンとしての最低限のマナーを身に付ける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	秘書検定実問題集2級							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	秘書検定2級合格の知識を習得							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	秘書業務を学んだうえで社会人としてどのように活用できるか判断できる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ビジネススキルを理解した上で模擬挙式に活用する事が出来る							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	3級試験範囲の復習	3級試験範囲の復習						
第2回	3級試験範囲の復習	3級試験範囲の復習						
第3回	模擬試験実施	過去問の実施						
第4回	必要とされる資質	秘書の心構え 秘書に必要な条件						
第5回	職務知識	秘書の役割と機能 秘書の職務						
第6回	一般知識 企業と経営	資本と経営 企業の組織形態 経営管理						
第7回	一般知識 企業の活動	人事労務 会計財務 手形小切手 税務 生産管理						
第8回	社会常識	情報処理とニューメディア 常識としての基礎用語略語カタカナ語						
第9回	マナー 接遇	人間関係と話し方・聞き方 基礎応用						
第10回	電話応対と接遇 交際	電話応対の基本 接遇用語の使い方 慶事の対応 パーティ等の知識						
第11回	会議と秘書	会議の知識 準備設営 会議中の秘書の仕事						
第12回	ビジネス文書の作成 文書の取り扱い	社内文書の種類と形式 社外文書 ビジネス文書の慣用語 メモの取り方						
第13回	文書 資料管理	ファイリングの基本 保管方法 名刺の整理 情報収集と管理						
第14回	日程管理とオフィス管理	予定表の種類と記入要項 事務用品の種類						
第15回	模擬試験の実施	秘書検定2級の過去問実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	サービス接遇Ⅰ	単位数	1	科目コード				
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プライダル業界で働くにあたり必要な構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。							
授業の一般目標	プライダル業界で働く楽しさを新郎新婦のコーディネートなどから感じ取り、それをサポートする接客力を習得する。 就職活動や社会人にスムーズになれる言動を身につける。サービス接遇3級(6月受験)準1級(11月受験)2級合格(1月受験)を目標とする。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と検定要項の確認			3級試験対策			
第2回	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件が理解できる			3級試験対策			
第3回	専門知識	サービスの意義、機能、種類を理解する 商業用語、経済用語が理解できる			3級試験対策			
第4回	一般知識	社会常識、時事問題が理解できる			3級試験対策			
第5回	対人技能	一般的な人間関係や対人心理、マナーが理解できる			3級試験対策			
第6回	対人技能	接遇用語を理解し基本的な話し方ができる 提示説明の仕方が理解できる			3級試験対策			
第7回	実務技能	問題処理、環境整備、金品管理について理解できる			3級試験対策			
第8回	過去問題実施 模擬試験の実施	サービス接遇検定3級の過去問を実施			3級試験対策			
第9回	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件が備えており判断、表現ができる			2級試験対策			
第10回	専門知識	サービスの意義、機能、種類を理解する 商業用語、経済用語が理解できる			2級試験対策			
第11回	一般知識	社会常識があり、時事問題が理解できる			2級試験対策			
第12回	対人技能	一般的な人間関係や対人心理、マナーを理解し表現、実行することができる			2級試験対策			
第13回	対人技能	接遇用語を知っており接遇者としての話し方ができる 提示説明ができる			2級試験対策			
第14回	実務技能	問題処理、環境整備、金品管理について理解し、対処ができる			2級試験対策			
第15回	期末試験の実施	期末試験の実施			2級試験対策			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	サービス接客Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プライダル業界で働くにあたり必要な構えと接客力を身につける、サービス接客を通し、理解を深める。							
授業の一般目標	プライダル業界で働く楽しさを新郎新婦のコーディネーターなどから感じ取り、それをサポートする接客力を習得する。 就職活動や社会人にスムーズになれる言動を身につける。サービス接客3級(6月受験)、2級(1月受験)準1級(12月受験)を合格目標とする。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接客に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接客について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と検定要項の確認				準1級試験対策		
第2回	接客ロールプレイング	接客者としての基本言動(言葉使い、所作)ができる				準1級試験対策		
第3回	接客ロールプレイング	接客者としての基本言動(言葉使い、所作)ができる				準1級試験対策		
第4回	接客ロールプレイング	接客者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第5回	接客ロールプレイング	接客者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第6回	接客ロールプレイング	接客者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第7回	接客ロールプレイング	接客者としての基本対応ができる				準1級試験対策		
第8回	接客ロールプレイング	模擬面接実施				準1級試験対策		
第9回	接客ロールプレイング	模擬面接実施				準1級試験対策		
第10回	2級対策授業	2級試験範囲復習				2級試験対策		
第11回	2級対策授業	2級試験範囲復習				2級試験対策		
第12回	模擬試験	検定試験直前対策、2級合格のポイントを押さえる				2級試験対策		
第13回	模擬試験	検定試験直前対策、2級合格のポイントを押さえる				2級試験対策		
第14回	サービス接客検定答え合わせ	2級試験範囲復習						
第15回	期末試験実施	期末試験実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	マナープロトコル		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	美しい所作を身に付けると同時にお客様へのおもてなしを体験できる人間になる。							
授業の一般目標	立ち方・座り方・食事のマナーを知る。マナープロトコル検定を取得し、社会人になった際にマナーに沿った対応ができるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 主語と述語を近づける、相手を敬う表現を正しく使う	本科目の学習目標を知る 明快で尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使用した文章を作成する						
第2回	修飾・被修飾関係をはっきりさせる・適切な指示代名詞を使う	情景や細やかな心情を表現するために必要な修飾語表現を学ぶ						
第3回	効果的に接続詞を使う・語尾を統一する	適切に接続詞を入れることで、文と文をつないで、文章を整理し読みやすくする						
第4回	一文を短くする・一文には1つの事柄だけを入れる	要領を得た、わかりやすい文章にするために、短い文章を作成する						
第5回	助詞「の」の連続使用は2回までにする・二重否定を避ける	単調な、またあいまいな印象を与える言葉の重複使用を避ける						
第6回	事実と推測を区別する	事実と推測を区別することで読み手の誤解を防ぐ						
第7回	理解しやすい構成にする	読み手が即座に全体像を把握できる構成にする						
第8回	国際プロトコルの基本	国際化社会において必要とされる、外交上のマナーやしきたりを学ぶ						
第9回	食事のマナー	各国料理のテーブルマナーについて学ぶ						
第10回	冠婚葬祭と贈答のマナー	日本の、特に葬しきたりと贈り物・お返しのルールを学ぶ						
第11回	社会人に必要なマナー振り返り	他科目で修得した社会人として必要なマナーについて、マナー・プロトコル検定試験前に振り返る						
第12回	論理的な文書をつくる(1) 企画書	簡潔でわかりやすいビジネスEメールを書くコツを学ぶ						
第13回	論理的な文書をつくる(2) メール文	簡潔でわかりやすいビジネスEメールを書くコツを学ぶ						
第14回	論理的な文書をつくる(3) 議事録	情報共有を目的とした議事録において必要な要素を学ぶ						
第15回	まとめ							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	プレゼンテーション・ディベート学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。							
授業の一般目標	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	プレゼンテーションに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でプレゼンテーションについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの種類と定義について						
第2回	コミュニケーションとプレゼンテーション	コミュニケーションとプレゼンテーションの違いについて						
第3回	プレゼンテーションの目的	紹介のプレゼンテーション						
第4回	プレゼンテーション準備と流れ1	聞き手の分析や目的の明確化						
第5回	プレゼンテーション準備と流れ2	プラン作成やツールについて						
第6回	聴衆に好感を持たれる話し方の基本	聴衆に好感を持たれる話し方の基本を学ぶ						
第7回	バーバル表現	聴衆に好感を持たれる態度、演出法						
第8回	ノンバーバル表現	聴衆に好感を持たれる態度、演出法						
第9回	身近なプレゼンテーション	スピーチ・フリートーク						
第10回	ディベート理論	インタビューをしてみよう						
第11回	ディベート基礎	会議と司会をしてみよう						
第12回	ディベート基礎	学校生活について話してみよう						
第13回	ディベート演習	グループワーク						
第14回	発表に向けてのリハーサル							
第15回	プレゼンテーション発表と振り返り							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	プレゼンテーション・ディベート学Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を学ぶ。プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に、話し方などの口頭表現、身体表現を中心とした演習を行なう。							
授業の一般目標	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	プレゼンテーションに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でプレゼンテーションについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの種類と定義について						
第2回	コミュニケーションとプレゼンテーション	1年後期の振り返り						
第3回	発表したプレゼンのフィードバック	1年後期の授業で発表したプレゼンのフィードバック						
第4回	発表したプレゼンのフィードバック	1年後期の授業で発表したプレゼンのフィードバック						
第5回	再構築したプレゼン作成	フィードバックから、再度構築し、シナリオ作り						
第6回	課題のプレゼンを行う	再構築したプレゼン発表を						
第7回	課題のプレゼンを行う	再構築したプレゼン発表を						
第8回	ディベートとは?	ディベートの考え方、定義						
第9回	ディベートの方法	議論の設定、持論の整理						
第10回	知的基礎体力をつける	知識の収集方法、考え方や話し方						
第11回	ディベート力を生かす	どの様な場面で生かせるのか						
第12回	ディベート実習	「今後日本の結婚式は無くなっていく」						
第13回	ディベート実習	「今後日本の結婚式は無くなっていく」						
第14回	ディベート実習	「日本は救急車を有料化するべきである」						
第15回	ディベート実習	「日本は救急車を有料化するべきである」						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	岡澤 ひとみ			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/okazawa/			

科目名	セールスプロモーション		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プランナーにおける新規接客からクロージングまでの流れを知る。数組のカップルを想定し接客ロープを実施する							
授業の一般目標	プランナーにおける新規接客からクロージングまでの流れを知り、ヒアリング・カンセリング能力の向上を図る。 また、規約内容を理解し、職業観も身に付ける。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学んだ事を説明できる。2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べるができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	セールスに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でセールスについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	プライダルにおける新規接客の基礎ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス	授業概要説明・営業の仕事とは・プライダルにおける新規接客の流れ						
第2回	アイスブレイクとウェルカムシートの内容	カップルの情報をつかむヒアリングシートの見方						
第3回	ヒアリング演習	お客様役・プランナー役にわかれて演習						
第4回	挨拶からヒアリングまでの流れをつくる	名刺の渡し方から挨拶・ヒアリングまでの流れを知る						
第5回	挨拶からヒアリングまで	名刺の渡し方から挨拶・ヒアリングまでの流れを知る				小テスト実施		
第6回	3つのセールスポイントについて	時間制限を設け、セールスポイントをまとめる						
第7回	式場の魅力を伝える①	PREP法・グループにわかる						
第8回	式場の魅力を伝える②	台本の作成				オンライン配信		
第9回	式場の魅力を伝える③	台本の作成・演習						
第10回	イメージトレーニング	提案力をみにつける						
第11回	クロージングについて	クロージングとは						
第12回	クロージングについて	演習						
第13回	新規接客ロープ	新郎新婦を想定した新規ロールプレイの実施						
第14回	新規接客ロープ	新郎新婦を想定した新規ロールプレイの実施						
第15回	期末テスト	新郎新婦を想定した新規ロールプレイの実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎		○	◎	○	70	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎	○			10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	○	○		10	B(2):70点以上
授業態度	○	○	◎	◎			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	
担当教員	森田 有香		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/				

科目名	ホスピタリティマインドコミュニケーション			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	今、我が国では広く社会全体で“心の教育”への注目度が高まっています。また、多くの企業や組織では、相手の立場に立って、心から相手のことを考えて行動する「ホスピタリティ」を、CS(顧客満足)の向上に役立てようとする取り組みがなされています。この授業では相手の立場に立ったコミュニケーションや気遣い、共創やそのための職場環境、顧客満足などを学びます。							
授業の一般目標	ホスピタリティのTPOと5W1Hを理解し人間行動に結び付ける。各テーマに沿った小論文を作成する事ができる							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ホスピタリティに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でホスピタリティについて主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用実践に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	ホスピタリティ・マインドとは	マインドと♡ ホスピタリティとサービス 最低限のホスピタリティ実践項目						
第2回	ホスピタリティ・マインドとは・マインドと人間行動の特質	6種類の心 3種類の力 必要とされる協調的・行動的な特質						
第3回	ホスピタリティ・マインドが生きるTPOと5W1H	時 場所 場面 誰が 何を いつ どこで どうして どんなふうに						
第4回	ホスピタリティ・マインドが生きるTPOと5W1H	時 場所 場面 誰が 何を いつ どこで どうして どんなふうに						
第5回	ホスピタリティ・マインドを個人として生かすには	ホスピタリティ・コミュニケーションとは						
第6回	ホスピタリティ・マインドを個人として生かすには	ホスピタリティと「言葉」						
第7回	ホスピタリティ・マインドを個人として生かすには	コミュニケーション上手になる秘訣						
第8回	ホスピタリティ・マインドを組織として生かすには	社会貢献的マインド ホテル、一般企業や団体でのマインド						
第9回	ホスピタリティ・マインドを組織として生かすには	CS コンプライアンス クレドとマニュアル 公共機関とホスピタリティ						
第10回	お金とホスピタリティ・マインド	チップ制とサービス料制						
第11回	異業種間で生かされるホスピタリティ・マインド	お客様相談室の機能						
第12回	国境を越えて生かせるホスピタリティ・マインド	世界各地の特色あるホスピタリティ 経済観念とホスピタリティマインド						
第13回	国境を越えて生かせるホスピタリティ・マインド	日本文化とホスピタリティ						
第14回	これからのホスピタリティ	マニュアルプラスのホスピタリティ 教育現場からホスピタリティを展望すると						
第15回	期末試験の実施	期末試験の実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	森田 有香			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/			

科目名	ブライダル企業研究		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	婚礼会場はどのような場所にあるのか、そこではどのような仕事があるのか、関連業種などについて調べる。インターンシップの事前学習も行う。ブライダル業界をプレ・当日、新生活部分に分けて様々な角度から検討し、理解を深める。							
授業の一般目標	ブライダル業界を調べる事によって業界内の様々な職種を知る。また、そこで求められる人物像、知識などを各自が明確にイメージすることによって学習意欲を高める。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就活ナビノート							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. ブライダル業界とは何かについて説明できる。 2. ブライダル業界の各領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げたブライダル関連企業について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ブライダルに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でブライダル業界について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	ガイダンス	ブライダル業界の関連職種はどのようなものがあるか理解する						
第2回	ブライダル業界企業の特徴①	上場、未上場、親会社が他業種などブライダル企業の現在を知る						
第3回	ブライダル企業の特徴②	ブライダル企業を調べる						
第4回	ゲストハウス・ホテルウェディングの違い	ゲストハウス・ホテル 各施設でのウェディングをイメージし自分の将来像を考える						
第5回	ブライダル業界調査 発表	前回調べた企業を発表する						
第6回	ブライダル企業が求める人物像について	業界が求める人物像について考える						
第7回	自分を知る	なぜ 自分はこの業界で活躍したいと思うのか、自分を知る						
第8回	就職活動 準備①	就職活動に向けた企業研究ノート作成						
第9回	就職活動 準備②	就職活動での面接対策(グループディスカッション)						
第10回	就職活動 準備③	就職活動での面接対策(グループ面接)						
第11回	就職活動 準備④	就職活動での面接対策(個人面接)						
第12回	インターンシップについて	インターンシップ先での働き方やマナーについて						
第13回	インターンシップ先の企業研究							
第14回	まとめとインターンに向けての心構え	これまでのまとめとその業界に求められる人物像などについてディスカッションを行う				ブライダル企業に関する レポート提出		
第15回	まとめとインターンに向けての心構え	インターンシップの事前学習、お礼状や履歴書の準備など						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点(レポート・小テスト)70%、授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎	◎	○	○			40	B(2):70点以上
授業態度			○	○			20	C(1):60点以上
発表・作品		○	○				10	D:59点未満 未修得
演習								評価なし
出席			○					欠格条件
担当教員	森田 有香		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/morita/				